

## 協定締結により実施に向け検討する主な事業

### (1) 中央区のまちづくりに関する協働・参画

淑徳大学は、中央区に所在していることから中央区におけるまちづくりや地域の課題解決、地域活性化の取り組みにおいて、市との協働・協創を進めます。特に、中央区内の地域運営委員会の活動を支援するため、淑徳大学が有する資源（人的資源、学術研究の成果）を活用しながら、地域・行政・大学の連携を通じた地域マネジメントモデルの構築を進めます。また、地域人材の育成を目的とした教育プログラムの設計を目指します。さらに、地域課題を解決するために、淑徳大学学生の地域社会への参画をより一層進めるとともに、大学の資源を地域に提供するなど、「開かれた地域拠点」としての大学の機能を高めていきます。

### (2) パラスポーツ講座・交流会の開催など共生社会の実現に向けた取り組み

淑徳大学と本市は、2010年のゆめ半島千葉大会（全国障害者スポーツ大会）のボランティア活動や、2012年から実施している車椅子バスケットボール全国選抜大会の企画・運営などにおいて連携を進めてきたところです。今後共生社会の実現を目指し、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、これまでスポーツに親しむ機会の少ない障害者のスポーツへの参加機会の拡大や、互いの理解を深めるために障害のある人もない人もともにスポーツに親しむ機会の創出、競技普及の担い手育成などについて、さらなる連携を図ります。

### (3) 介護人材の確保・定着の促進

急激な高齢化の進展に伴い、2025年（平成37年）には団塊の世代の人すべてが75歳以上となり、本市においても介護人材が約4千人不足すると見込まれており、市では今後想定される介護人材の不足を補うため、介護ロボットの普及や外国人人材の活用など様々な施策を推進することとしています。そこで、これらの施策についての普及啓発として、淑徳大学の有する介護分野に関する豊かな知見を活用し、大学講師による先進的な取り組みに関する講演をはじめ、介護人材の確保・定着に向けた連携を進めます。

### (4) 看護・介護・福祉分野等における新製品開発の促進

今後、高齢化の進展に伴い需要が増大することが想定される看護・介護・福祉分野で活用される機器は、ハンドメイドで製品化されるものから、最新のロボット技術を活用し上市されるものまで多様に渡ります。地域経済活性化のため、ユーザー目線に立って、この分野に参入しようとする開発メーカーに対し、看護・介護・福祉に総合的な知見を持つ淑徳大学が助言等を行うことで、開発期間の短縮化や、製品の利便性向上を狙い、淑徳大学と市及び財団で連携を進めます。

### (5) 食品関連事業者と連携した新商品の開発

千葉市内及び近隣地域では、様々な農林水産物が生産されており、地域経済活性化と地産地消の推進のため、これらの地場産品を活用して食品開発を進める事業者と、栄養学の権威である淑徳大学の連携による新しい食品、新しいメニューの創造を狙い、淑徳大学と市で連携を進めます。